# ④ 縮約形について

丸　山　和季子

## 1. 目的と方法

この稿では、話しことばによくみられる＜表－１＞にあげた形について、発話者が男性の場合を考察する。本誌前号において、発話者が女性の場合を、＜表－１＞にあげた表現について考察したので、今回男性の発話も比較のため、＜表－１＞にあげた同じ形のものを検討した。ふつう、書きことばでは、＜表－１＞の左側のように記されるものが、話しことばでは、右側のように表現されることがしばしばある。縮約形とか短縮形とか呼ばれるものである。他にも＜けれども→けど＞＜いろいろな→いろんな＞などもあるが、前回同様、今回も対象からはずしてある。

＜表－１＞にあげた表現が、今回資料とした対話で使われている様子を分析し、

(1)　縮約形の使用回数、出現率

(2)　縮約形の使用は一般化されているか、個人差があるか、年令差があるか

(3)　男性と女性との間に相違がみられるか、敬意表出の点で男女差があるかなどの点につき、検討を加えた。

＜表－１＞

書きことばと縮約形の対応

| | 書きことば | | 話しことば |
|---|---|---|---|
| (1) | ～ている | → | ～てる |
| (2) | ～しておく | → | ～しとく |
| (3) | ～では | → | ～じゃ |
| (4) | ～してしまう | → | ～しちゃう |
| (5) | ～では | → | ～ちゃ |
| (6) | ～なければ | → | ～きゃ |
| (7) | ～の | → | ～ん |
| (8) | ～という | → | ～って |
| (9) | ～という | → | ～っていう |

検討する方法は、前回と同様であるので、１例をひき、簡単に説明する。

ケース１

「そうです、これは１足目なんですけれども、あとかかとがもう駄目なもんですからね。もうじきかかとがすれちゃいまして穴があきそうなもんですから」……中略

「ある時、ふと思うんですよ、思ったんですよ、やってみようかなということは、あのきっかけというのはですね、……」

上の例で、下線を施した部分は、＜表－１＞のそれぞれの項で数え上げられている。話しことばに表われる縮約形を数え上げると同時に、話しことばの中で使われている＜表－１＞の項に該当する書きことば表現もひろい出してある。上の引用例では

「１足目なんですけれども」の「ん」は、＜表－１＞の(7)の項に該当する。「じきかかとがすれちゃいまして…」の「ちゃ」は＜表－１＞の(4)に該当する。最後の下線部「きっかけというのはですね」の「という」は「きっかけってのはですね」となりうるので＜表－１＞の(8)に該当し、「というのは」の「の」は＜表－１＞の(7)に該当するので、それぞれの項で数え上げていく。

## 2. 定着して使われる縮約形

このようにして、18人のゲストの発話から＜表－１＞の(1)～(9)の項に該当する表現を数え上げたものが＜表－２＞である。それぞれの項で上段が書きことば、下段が話しことば（縮約形）となっており、備考欄には、その項の合計の縮約率、撥音化率、促音化率を示してある。

＜表－１＞の(1)～(9)の項目中、(2)は、出現数０であるので、今回の検討から省かれる。また、

(5) の「～ては → ～ちゃ」となるもの

(6) の「～なければ → きゃ」となるもの

については、出現数が少いので、縮約率が高いといっても、すべての場合も同様であると言いきることはできない。

＜表－２＞　ゲストの使用頻度（男性）

| | 語句＼ケース | K 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | T 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 計 | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) | ～ている | 1 | 8 | 7 | 10 | 4 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 4 | 18 | 1 | 58 | 縮約率 |
| | ～てる | 4 | 16 | 15 | 5 | 0 | 4 | 0 | 2 | 7 | 4 | 5 | 2 | 8 | 5 | 9 | 5 | 9 | 11 | 111 | （６６％） |
| (2) | ～しておく | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| | ～しとく | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | |
| (3) | ～では | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 縮約率 |
| | ～じゃ | 3 | 8 | 7 | 8 | 3 | 3 | 5 | 5 | 5 | 2 | 7 | 8 | 9 | 5 | 12 | 4 | 8 | 3 | 105 | （９８％） |
| (4) | ～してしまう | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 | 縮約率 |
| | ～しちゃう | 4 | 5 | 5 | 2 | 2 | 0 | 0 | 1 | 13 | 0 | 1 | 4 | 10 | 0 | 5 | 2 | 8 | 7 | 69 | （９７％） |
| (5) | ～ては | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 縮約率 |
| | ～ちゃ | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 15 | （100％） |
| (6) | ～なければ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 縮約率 |
| | ～きゃ | 0 | 0 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 6 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 15 | （９３％） |
| (7) | ～の | 1 | 21 | 22 | 14 | 1 | 2 | 4 | 10 | 9 | 2 | 9 | 8 | 6 | 1 | 6 | 1 | 9 | 3 | 129 | 撥音化率 |
| | ～ん | 20 | 37 | 60 | 28 | 36 | 18 | 20 | 34 | 39 | 51 | 15 | 31 | 36 | 27 | 32 | 35 | 97 | 21 | 637 | （８３％） |
| (8) | という | 17 | 1 | 2 | 14 | 3 | 7 | 6 | 6 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 15 | 1 | 3 | 2 | 0 | 83 | 縮約率 |
| | ～って | 0 | 15 | 13 | 4 | 0 | 0 | 1 | 4 | 7 | 5 | 3 | 10 | 2 | 1 | 12 | 2 | 6 | 9 | 94 | （５３％） |
| (9) | という | 13 | 0 | 0 | 4 | 2 | 1 | 6 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 36 | 促音化率 |
| | っていう | 1 | 35 | 9 | 18 | 0 | 6 | 2 | 9 | 10 | 9 | 7 | 4 | 10 | 11 | 22 | 8 | 14 | 4 | 179 | （８３％） |

(2)を除く(1)〜(6)の縮約率をぬき出してみると次のようである。

(1) ＜〜ている →〜てる＞ ６６％

(3) ＜〜では →〜じゃ＞ ９８％

(4) ＜〜してしまう→しちゃう＞ ９７％

(5) ＜〜ては →ちゃ＞ １００％

(6) ＜〜なければ →きゃ＞ ９３％

(1)の縮約率が66％とあるのは、個別にみると、ゲストＫ４とゲストＴ９において書きことばと話しことば（縮約形）の使用数が逆転しているため、この二例のために、全体の縮約率を低めている。この二例を除くと、縮約率91％となり、(3)、(4)、(5)、(6)の場合と同様、90％以上の高比率で縮約形を使っていることを示している。

これを前回調査をした女性ゲストの場合とくらべると次の＜表－３＞のようになる。

＜表－３＞

| 項目 | ゲスト（性別） | 男　性 | 女　性 |
|---|---|---|---|
| (1) | ＜ている → てる＞ | ６６％<br>（除・２例→91％） | ８６％ |
| (3) | ＜では → じゃ＞ | ９８％ | ９９％ |
| (4) | ＜してしまう→しちゃう＞ | ９７％ | １００％ |
| (5) | ＜では → ちゃ＞ | １００％ | ８４％ |
| (6) | ＜なければ → きゃ＞ | ９３％ | ９３％ |

この結果から、話しことばにおける(1)〜(6)の場合の縮約形の使用は、男女の別なく非常に高率で定着していることがうかがわれる。「ととのった形は互いにあまりよく知っていない者の間や、あらたまった場合に現われることが多い」とし、「音形として話しことば的な一種の融合形を使うか、融合しない形を使うか」を敬意の差とみる立場から考えると、(1)〜(6)の表現においては、特に女性の方に「ととのった形」の使用（注１）、つまり敬意の表出が多いということはいえない。むしろ、個人的好み、言語習慣による差は(1)の例であげた男性ゲストＫ４、Ｔ９に表

われている。また、年令による一定の傾向もみとめられない。

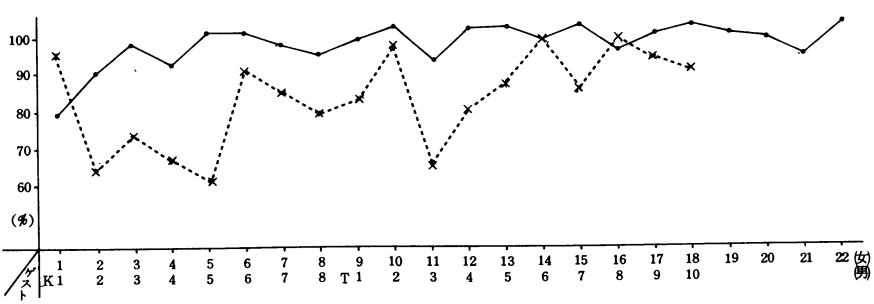
### 3. 使用の多い準体言の＜の＞→＜ん＞

＜表－１＞の(7)の項、つまり、準体言を示す＜の＞、形式名詞＜もの＞の一部の＜の＞、接続助詞＜ので、のに＞の一部の＜の＞が、撥音化して＜ん＞と発音された場合、及び元の＜の＞のままで使われる場合をみると、＜表－４＞のようになる。また、グラフ化すると＜図－１＞の如くである。

＜表－４＞　「の」の撥音便＋ん」使用の男女対照表

| 女性ゲスト | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| の | 5 | 2 | 1 | 3 | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | | | 1 | | 2 | 1 | | 1 | 2 | 2 | | 24 |
| ん | 19 | 18 | 41 | 39 | 22 | 73 | 25 | 14 | 47 | 27 | 36 | 11 | 25 | 31 | 45 | 27 | 33 | 38 | 33 | 58 | 22 | 33 | 717 |
| （％） | 97 | 90 | 97 | 92 | 100 | 100 | 96 | 93 | 97 | 100 | 97 | 100 | 100 | 96 | 100 | 93 | 97 | 100 | 97 | 96 | 91 | 100 | 96% |
| 男性ゲスト | K－1 | 1 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | T－1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | | | | | |
| の | 1 | 21 | 22 | 14 | 1 | 2 | 4 | 10 | 9 | 2 | 9 | 8 | 6 | 1 | 6 | 1 | 9 | 3 | | | | | 129 |
| ん | 20 | 37 | 60 | 28 | 36 | 18 | 20 | 34 | 39 | 51 | 15 | 31 | 36 | 27 | 32 | 35 | 97 | 21 | | | | | 637 |
| （％） | 95 | 64 | 73 | 67 | 97 | 90 | 83 | 77 | 81 | 96 | 63 | 79 | 85 | 96 | 84 | 97 | 92 | 87 | | | | | 83% |

＜図－１＞　「の」→「ん」使用の男女対照グラフ（被線は男性）



＜図－１＞をみると明らかなように、女性の場合、総じて＜の＞→＜ん＞の揆音化が高いのに対して、男性の場合、個人差があることが認められる。しかし、年令の変化と揆音化の変化とには関係がみられない。男女共に、＜の＞→＜ん＞の揆音化率は平均で女性96％、男性83％と高率である。ここでも、ととのった形から離れた＜ん＞の使用は女性の方が高く、敬意の表出は男性にくらべ低いといえる。

＜表－１＞の(7)、＜の＞が＜ん＞となる事例を、使用回数の少い男性ゲストＫ２使用回数の多い男性ゲストＴ９の場合を比較し、その内容を考えてみる。

揆音化する＜ん＞の元の形＜の＞は、

(ア) 準体言と示す＜の＞

(イ) 形式名詞＜もの＞の一部の＜の＞

(ウ) 接続助詞＜ので、のに＞の一部の＜の＞

(エ) その他

として考えられるので、２人の使用例から、分類してみると次のようになった。

＜表－５＞

| 事例 / 機能 | Ｋ　２ | | Ｔ　９ | |
|---|---|---|---|---|
| | の | ん | の | ん |
| (ア) 準体言 | 0 | ２０ | 2 | ８６ |
| (イ) 形式名詞 | 1 | 0 | 4 | 5 |
| (ウ) 接続助詞 | 0 | 0 | 3 | 4 |
| (エ) その他 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| | 1 | ２０ | 9 | ９７ |

(ア)の例としては次のような発話である。

「…切らなくてもいいらしいんですけどね。…」という場合の「ん」であり、「んです」と続くことが非常に多い。Ｋ２の場合もＴ９の場合でも、この準体言の動きをもつ＜の＞は殆んど揆音化して＜ん＞となっている。これにくらべ、(イ)の形式名詞＜もの＞の一部を作る＜の＞は、まだ、元の形が残り、Ｔ９の場合９例のうち、４例はもとの形、５例が揆音化されている。(ウ)の接続助詞について

は、７例のうち、３例はもとの形、４例が撥音化しており、形式名詞＜もの＞の揆音化、接続助詞＜ので、のに＞の揆音化はまだ定着しているとはいえない。しかし、準体言の働きをする＜の＞は男女共に＜ん＞という撥音便を使うことが優勢となっている。

## 4. ＜という＞の縮約化と促音化

＜表－１＞の(8)と(9)は、整った形として＜という＞と使われるものが、(8)の場合は＜という＞全体が＜って＞と縮約され、(9)では＜という＞の＜と＞が促音化されて＜って＞となり、そのまゝ全体が＜っていう＞の形で使われる場合とに分けてある。この２つの場合を＜表－２＞からとり出して下にかかげる。＜表－６＞とする。

＜表－６＞

| ケース | K 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | T 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| という | 17 | 1 | 2 | 14 | 3 | 7 | 6 | 6 | 0 | 1 | 2 | 3 | 0 | 15 | 1 | 3 | 2 | 0 | 83 | 縮約率 |
| ～って | 0 | 15 | 13 | 4 | 0 | 0 | 1 | 4 | 7 | 5 | 3 | 10 | 2 | 1 | 12 | 2 | 6 | 9 | 94 | 53% |
| という | 13 | 0 | 0 | 4 | 2 | 1 | 6 | 6 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 3 | 0 | 36 | 促音化率 |
| っていう | 1 | 35 | 9 | 18 | 0 | 6 | 2 | 9 | 10 | 9 | 7 | 4 | 10 | 11 | 22 | 8 | 14 | 4 | 179 | 83% |

使用回数の数値からみると、(8)の場合、個人差が強いことに気づく。全体としての縮約率が53%といっても、逆に、縮約せずに、整った形（書きことば）のまま＜という＞と使っている場合の多いケースが、18中８例ある。

＜表－７＞

| ケース | K 1 | K 4 | K 5 | K 6 | K 7 | K 8 | T 6 | T 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| という | 17 | 14 | 3 | 7 | 6 | 6 | 15 | 3 |
| って | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 | 4 | 1 | 2 |

上表＜表－７＞のケースＫ１、Ｋ５、Ｋ６のように、今回の発話の中では１度も縮約形を使わない人、また使っても、18例中４回とか７例中１回といったケースＫ４、ケースＫ７がある。事例を引く。

K 4

「ああいう遊び場をやりたいということでお願いをして、ちょうど国際児童年の記念事業ということでね。えー、羽根木プレーパークというのができあがったんですね。」の中の、下線部分が、次のようにはならないということである。

「やりたいってことで、……事業ってことでね、……プレイパークってのができあがったんですね」

K 4の発話と、縮約形を使った表現をくらべてみると、前者は整った形、あらたまった印象があり、そこに話し手と聞き手の間に距離を与え、敬意の表出となっていることがうかがわれる。個々のケースに於て、縮約形を使う比率が50%をこえることがあるのか、また、何年かのちには使うようになるのかなど興味をひく事柄ではある。

次に＜表－１＞の(9)、＜という→っていう＞の項についてのべる。整った形＜という＞の使用回数が、促音便＜っていう＞の使用回数を上まわっているケースは、18中３となり、項目(8)にくらべ、18例中15例は、促音化している。(9)の場合も、促音化が少ないケースは、(8)の場合のケースと一致し、かつ、ケース数はへっている。＜表－７＞に追加して(9)の項で、促音の使用が少いものを表にすると、＜表－８＞となる。

＜表－８＞

| ケース | K 1 | K 4 | K 5 | K 6 | K 7 | K 8 | T 6 | T 8 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| という | 17 | 14 | 3 | 7 | 6 | 6 | 15 | 3 |
| って | 0 | 4 | 0 | 0 | 1 | 4 | 1 | 2 |
| という | 13 | | 2 | | | | | |
| っていう | 1 | | 0 | | | | | |

ケースK１、K５の２例が、＜という＞→＜っていう＞の促音を使うことが少い。が、＜表－７＞での８ケースより２ケースと減少し、K５のケースは、＜という＞という表現をとることも稀な話し方をする人物であることが推測される。このようにして、＜という＞→＜っていう＞となる＜と＞の促音化は、今回の調査対象となった18ケースのうち16ケースにみられることとなる。

調査項目<表－１>の(8)と(9)をケース毎に(8)は撥音化率を(9)は促音化率を表にしたものが<表－９>である。

<表－９>

| 項目＼ケース | K 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | T 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 計 | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (8) | 0 | 94 | 87 | 22 | 0 | 0 | 14 | 40 | 100 | 83 | 60 | 79 | 100 | 6 | 92 | 40 | 75 | 100 | 53% | 撥音化率 |
| (9) | 7% | 100 | 100 | 81 | 0 | 86 | 25 | 60 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 96 | 100 | 82 | 100 | 83% | 促音化率 |

どのケースも、(8)より(9)の方が、縮約率は高い。個人的言語習慣からか、個人差がめだつ。だが、大勢は縮約化された表現を用いており、特に、(9)の項、つまり、<という>の代りに<っていう>を常に用いているケースは、18例中9例である。18例での平均促音化率は83%。ケースK－１・K－５・K－７を除くと、15例の平均促音化率は94%となる。対話における発語の場合、<という>の代りに<っていう>を用いることが優勢となっていることが、今回の事例で判明した。これは、前号で調査した女性の場合、

(8)　<という>→<って>となるもの　10%

(9)　<という>→<っていう>となるもの　64%

にくらべ、男性の方がより高率で、縮約形を使っていることになる。

以上<表－１>の(1)～(9)の項を男女の使用状況の比較の点からみると、

(1)～(6)においては<(2)を除く>男女の別なく、年令による傾向もなく、縮約形を使っている。つまり、女性の方がより整った形→敬意の表出が多いということは認められなかった。(7)の<の>→<ん>の使用については、女性の方が揆音化率が高く、男性の方が、整った形の使用が多い。これを敬意の表出が高いというか、<の>→<ん>を敬意の表出とは関係なく、女性特有の音声使用とみるかは、今回の調査のみでは断定できない。(8)、(9)については、男性の方が、縮約形を多く使っており、女性の縮約化率を上まわっている。総じて、(1)～(6)は男女の別なく、(7)と(8)、(9)は男女それぞれ逆の結果となり、今回の調査に限れば、女性の話しことばの方が、より敬意のこめられているとはいえない。むしろ、話しことばに於て、縮約化の傾向は、男女共に進んでいるといえよう。

（注１）　南不二男「敬語の機能と敬語行動」（岩渕書店）による。

参考文献

国立国語研究所　「話しことばの文型Ｉ」　秀英出版

岩渕書店　「講座　日本語４」

大石初太郎　「敬語」　ちくま文庫

服部四郎　「音声学」　岩波書店

柴田武編　「現代日本語」　朝日新聞社

文化行　『「ことば」シリーズ』　他